

音楽と私

サクソと共に
アンサンブル シーガル横浜 林 潤

サクソとの出会い

昭和42年30才の頃「夜霧よ今夜も有難う」の曲がヒットし、演奏されていたテナーサクソに魅了され、吹いてみたいと思ったが、高価で難しい楽器と諦めていた。昭和55年夏42才の頃、賞与が多く頂けたので永年の夢であったサクソを購入した。が、教則本頼りの自己流練習では満足な音も出ないまま月日経ってしまっただけ。定年前年の平成8年59才、無趣味な私の定年後を心配した娘が、タウン紙に載っていた音楽教室の記事を見付け、娘の勧めで夜間の音楽教室に通い始めた。

音楽教室とアンサンブルへの入会

娘と同年齢の若い先生に冷や汗を流しながらドレミファからサクソの吹奏を教わった。音楽教室で3年、平成11年9月教室で見つけた横浜シルバーアンサンブルのメンバー募集のチラシを頼りに見学に訪ね、他の楽器との合奏のすばらしさを感じ入会した。以来25年、音楽演奏を通じて第二の人生を思いがけず充実した日々を過ごすことが出来た。

特養ホームへのサクソ演奏

平成13年9月、妻が友人から次のような依頼を受けた。「母が特養ホームに入っているうちに、入所の人達が集まってきて一緒に唄っている。ご主人がラップを吹いていると聞いたので童謡に伴奏をしてくれないか」とのことでした。私は50才の頃「将来定年後には老人ホームへ演奏のボランティアが出来たらいいなあ」と想い描いていたので、夢が実現出来ると引き受けました。

特養ホームを訪問すると、ホーム長さんから「せっかく来て下さるのなら4階の童謡伴奏だけでなく、2階のデイサービスや3階の認知症の方々にも聴かせてあげて下さい」とのお話があり、お受けした。ホームへは毎月1回訪問し、午前は2階のデイサービスの30名位の方々に、春夏秋冬の季節に合った歌や懐かしい童謡唱歌(故郷、夕焼け小焼け等)・ポピュラー歌謡曲・民謡等17曲を40分位聴いたり唄ったりしていただく。

午後には4階の手・足・目などがご不自由な方々が唄う童謡唱歌にあわせて伴奏をします。ここでは20名位の方がいて10曲を、妻は歌詞集をめくるお手伝いをします。その後3階へ移り17曲を40分位、30名位の方に聴いて頂きます。3階には認知症の方が入所されていて、気に入った曲には目を輝かせ、手拍子・大きな声で唄う・車椅子で上半身だけで踊る等されますが、気に入らない曲にはそっぽを向いてしまひ、はつきり態度に示され、音楽の影響にホームの職員の方々も驚いていました。「音楽が人の心に如何に大きな刺激を与えるものか」と感じています。各階で「楽しかったよ」「また来てね」と声をかけられると、来て良かったと思う毎回でした。

この訪問演奏も体力の減退を感じ平成29年3月80才を機に終了させていただいた。想えば平成13年9月から15年6ヶ月、180回、毎回45曲の演奏であった。

音楽の有難さ

ホーム訪問の帰途、同行の妻と毎回のよう話すのは「ボランティアで何う私達の方が、反対に元気を貰って帰るようだね」と、音楽が人に与える力、終わりのない音楽の奥深さ、他の人と合奏する音楽の楽しさにすっかり魅了されて過ごす日々でした。

シニアアンサンブルで25年、音楽と共に、サクソと共に

平成11年8月旧称横浜シルバーアンサンブルが設立されてから今年で25年を迎えました。発足の翌月入会した時のメンバー14名が、今では28名の重厚な音楽となり、練習した曲の楽譜も420曲を超えました。全日本シニアアンサンブル連盟主催の全国大会へも、第2回杉並大会から第15回の江東大会まで、広島、千葉、宇都宮など、ほとんどの全国大会に参加させて頂きました。私も今秋には米寿の齢となりましたが、これからも続く限りサクソと共に音楽を楽しんでいきたいと思っています。

